

2025-11-11 定例理事会議事録

キーワード

- ・ 地域医薬品提供強化体制の説明会(11/14)
- ・ 意向調査フォーム(Google フォーム)
- ・ 運用規定(戸田市薬剤師会×ファルモ)
- ・ 運用規定承認・改定
- ・ 学術研修会(12/16・Zoom)
- ・ 理事報酬／費用弁償の検討
- ・ 会員制度・参加資格
- ・ 安否確認システム(セコムトラストシステムズ)

会議情報

日付: 2025-11-11 19:30-21:00

場所: あおば薬局戸田公園

参加者: 武長 野口 芹澤 小林 鎌田 中川 染川

議事メモ

地域医薬品提供強化体制の説明会準備(11/14)

- ・ 11/14 に説明会を実施予定。司会は芹澤副会長に依頼済み。
- ・ 説明内容:事業趣旨、実施ステップ(1～3)、薬剤師会の立ち位置、各薬局への期待行動。
- ・ 助成金・補助金は詳細未発表のため口頭補足に留める。
- ・ 説明会後、参加申込の案内を翌日以降に一斉送付。
結論:
- ・ 説明会後に「参加申込書」と「運用規定」を全薬局へ送付する方針。

意向調査・メール収集と周知方法

- ・ Google フォーム 2 種:意向調査／薬局情報・メールアドレス収集。
- ・ 説明会後、フォームへ誘導(郵送とホームページの両面で案内)。
- ・ メール収集状況:全 54 件中、残り 10～15 程度未収集。会員外 28 件。途中集計で 17 件入力済み、残り約 8 件の可能性。

- メール公開状況は薬局ごとに差があり、未保有の薬局も存在。
- 周知は当面郵送中心だが、ホームページへ集約を進めたい。
結論:
- 全アドレス収集後は一斉メール+ホームページ誘導を実施。もう一度郵送が必要となる可能性は準備。

動画公開の扱い(説明会記録)

- ファルモからシステム紹介資料や説明会動画の提供見込み。
- ホームページでの一般公開はリスク(切り抜き等)あり。
- ファルモから「紹介 QR は HP に載せないでほしい」との要請あり。
- YouTube リンクの扱いは保留。リンク提示は限定的にする案(問い合わせ対応で個別提供など)。
結論:
- 動画は用意可能だが公開方法は保留。必要時に別手段で提供。

運用規定(案)の説明・修正ポイント

- 主体・責任の定義:運用主体は戸田市薬剤師会、薬局は利用者、ファルモは保守・障害対応の委託先。
- 参加手順:薬剤師会指定の意向調査・登録フォーム経由。ファルモへの直申込みは不可(会経由必須)。
- 介入範囲:個々の取引には関与しない。システムは在庫探索の効率化が目的。
- 誤情報対応:基本はレセコン連動で誤りは少ない想定。システム側起因時は会・ファルモへ報告の方針を記載(報告過多は避ける表現に留意)。
- 条文の表現調整提案:第1条に「地域住民に対して」の文言追加。第5条2の「または」等の曖昧表現を改善検討。
- 登録内容変更時の対応:速やかに会へ報告し、情報更新。
- 抹消・停止:第8条4に基づき、運用に支障がある場合は利用停止・登録抹消可。
- 任意離脱:会社意向での参加中止申請があれば第8条4で対応可能。
結論:
- 運用規定案は概ね了承。第1条の文言追加と第5条2の表現見直しを反映のうえ承認を得る方針。

運用規定の承認と改定プロセス

- 運用規定は原則参加を基本とし、申し出があれば削除対応する運用を確認。
- 主要改定は理事会レベルで審議・承認して随時更新する方針を確認。
- 理事会承認での運用規定改定に異論なし。
結論:
- 運用規定は理事会承認により承認。今後も随時改定。

ホームページ掲示・資料整備

- ホームページ掲示は小林理事に依頼。必要に応じ PDF 化して送付。
- 事業趣旨文書は既に作成済み。追加肉付けは作業量とバランスを見て検討。
- 郵送文面には HP リンク設置の可能性を示す文言を含める案。
結論:
- HP 掲示と郵送文面準備を進め、説明会直後の一斉送付に備える。

学術研修会の開催計画(12月)

- 講師:鎌田理事。演題は「感染症研修」と「災害研修」の 2 本。
- 開催日時:12月 16 日(火)19:30~20:30。形式:Zoom。
- 講師謝礼:1 万円(源泉徴収後、手取り約 9,000 円弱)。
- 案内:中川理事が会員向けに周知。参加受付は Google フォームで実施。
- Zoom 設定やフォーム作成は鎌田先生の確認を得て進める。
結論:
- 12/16 19:30-20:30、Zoom で開催。謝礼 1 万円で合意。案内・受付は中川理事が対応。

三司会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)関連の現状報告・課題

- 懇親会最終参加者:44 名(医師会で欠席者発生により調整)。
- ゴルフ参加:16 名(4 組)。戸田市薬剤師会からは芹澤先生、[Speaker 2]、野見先生が参加。ワラビーから本吉先生が参加。
- 参加費回収:当日朝 6:30 にコース集合で対応(芹澤副会長へ依頼済)。
- 夜の懇親会:19:00 開始、会場は蕨市民会館。戸田市薬剤師会会員の参加費は市薬が一括対応。
- ゴルフコンペ費用:参加者が各自負担。プレー代も各自負担。
- 薬剤師会の懇親会参加が毎年少ない課題を共有。若手・一般会員の参加促進が必要。
- 参加ハードル(時間帯、勤務形態、役職意識)や周知不足が要因との認識。
- 広報手段の検討(参加者の雰囲気共有、写真活用の是非、役職に限らない参加可の周知)を提案。
- 来年度に向けて参加者増に向けた施策検討で合意。
結論:
- 今年の運営は計画通り進行。来年度は広報強化等で薬剤師会の参加増を目指す方針。

理事会の今後日程

- 12月 9 日、1月 20 日、2月 10 日、3月 10 日の 4 回を予定(メールで案内済)。

会員制度・参加資格の整理

- 非会員が半数程度いる状況を共有。

- ・個人会員を認め、県・日薬への所属不要とする方針に言及。
- ・参加資格は「会員が原則」という考え方が示される。
- ・非会員への対応を会員募集の導線にする意見あり(非会員は費用弁償対象外)。
結論:
- ・会員参加を基本とし、個人会員制度を前提に検討を進める方向感が示された。

費用弁償・報酬の定義と支払い基準

- ・行政関係委員会は行政→薬剤師会へ推薦依頼が来る構造。
- ・行政主催で報酬が出る案件は「会からは出さない」方向が支持。
- ・会主催・共催・会派遣の活動は会から費用弁償を支払う方針案。
- ・学校薬剤師など行政委員会は原則「移嘱先からの報酬」で対応。
- ・元気サロン等ボランティアは、主催・派遣の扱いにより支払い可否が分かれる。
結論:
- ・支払い基準案:会主催・共催・会派遣は会から支払い／行政移嘱は移嘱先からの報酬で対応。

金額設定と試算の必要性

- ・一般会員 3000 円／理事 5000 円など複数案を議論。
- ・理事会 7 人・月 1 開催・年間 12 回の場合、5000 円なら 42 万円、3000 円なら 25 万円程度の試算を共有。
- ・理事会以外の臨時会や打合せを含めると総額は 30 万円超の可能性。
- ・若手は「タイパ(タイムパフォーマンス)」重視で単価を上げる意見も。
- ・実行前に「発生工数のカウント」と「総費用試算」が必要。
結論:
- ・具体金額は未決。まず年間の参加回数と費用をカウント・試算し、現実的金額を決定する。

申請・報告のルール化

- ・費用弁償を支払う前提で「簡易な報告書提出」を必須化する提案。
- ・健康まつり等は感想・アンケートで代替可能という意見。
- ・会社からの業務命令で参加する場合は会からの受領を辞退できる仕組みが必要。
- ・非課税の交通費としての扱いを想定(報酬ではなく費用弁償)。
結論:
- ・費用弁償支払いには報告書(簡易可)提出を条件とし、辞退制度も整備する方向。

会員増加と参加促進の狙い

- ・年に 2~3 回の参加で「会費の実質回収が可能」という設計で参加促進を狙う。
- ・会費の還元として費用弁償を位置づけ、会員増加につなげたい意向。

- 理事への上位単価設定は「責任と機会の多さ」を踏まえ検討項目。
結論:
- 還元設計により参加活性化・会員増加を目指す方針が示された。

セコム安否確認サービスの説明会報告と比較検討

- 5時～6時にセコムトラストシステムズ担当(小松原さん)による安否確認サービスの説明を受領。
- 埼玉県薬剤師会が既に利用しており、県の運用事例を踏まえて情報収集。
- 目的:災害時に薬局機能の残存状況、備蓄薬の状況、処方箋受付可否等を会として把握。
- サービス種別:
 - 従来型(300人以上向け／SEシステム、20年来の運用)
 - スマート(小規模～300人以下向け、4年前から運用)
- 機能:
 - 地震震度等のトリガーで一斉配信(メール・LINE)
 - 個人安否確認の集約
 - 管理者画面で集計表示
 - 手動アンケートで薬局構造・備蓄状況等の収集
 - 掲示板的な情報共有機能(普段の情報発信にも活用可能)
- 価格感(概略):
 - スマート:初期費用ゼロ、月額約1万円程度(人数条件あり、例:50名の試算)
 - 従来型:初期費用約10万～12万円、従量課金(例:1人20円、LINEは+5,000円)
 - スマートの例示として「1人月200円(年間2,400円)」の提示あり
- 留意点:
 - スマートと従来型は同一セコムでもシステムが異なり連携不可
 - 300人規模へ近づくと両プランの費用差が縮小
- 結論:
- 本日は結論なし。年度内の目処で結論を出し、来年度からの運用開始を目指す方針。

対象範囲と運用設計(会員・非会員の扱い)

- 災害時の目的から、非会員も含めた地域全体の状態把握が望ましいとの意見。
- 会員サービスと、非会員への情報提供・収集は切り分けて設計(差別化と線引きが必要)。
- 連絡対象の単位:
 - セコムの対象は基本「個人」。
 - 薬局ごとに何名を登録するかは要検討(1名代表か、複数登録で冗長性確保か)。
- コスト面の考慮:全員対象配信は分かりやすいが、費用増に注意。

地域医薬品供給体制強化と薬剤師会の組織力向上

- 行政からの要請(地域医薬品供給体制の把握)への対応強化が必要。

- ・ 非会員との連携強化により、情報共有・発信力を高め、行政・議会からの評価向上を狙う。
- ・ 学術講演会などで非会員向け有料参加等の選択肢を拡げ、会員拡大につなげる可能性。
- ・ 会費体系:非会員も情報連携・改修により一定費用負担を促す考え方を言及。

追加の機能活用案(掲示板・在庫共有)

- ・ 掲示板機能で不動在庫の共有・売買情報の発信など、平時の運用価値に期待。
- ・ 既存ツール(ファルモ等)の類似機能との比較が必要。

今後の検討プロセス

- ・ 導入を決める前に複数ベンダー(過去に説明を受けたエストエイド含む)で再度説明会を実施。
- ・ 予算配分と意思決定は理事会で正式に議論。

次の手配・アクションアイテム

- [] 11/14 説明会の司会を芹澤副会長に正式依頼・確定
- [] 説明会後に「参加申込書」「運用規定」を全薬局へ一斉送付
- [] Google フォーム(意向調査／薬局情報収集)への誘導文面を郵送・HP に掲載
- [] 運用規定の第 1 条文言追加と第 5 条 2 の表現修正を反映し承認取得(理事会承認で随時改定)
- [] 小林理事へ HP 掲示の依頼・資料 PDF 化
- [] 説明会動画の提供方法(限定配布等)を決定
- [] 残りのメールアドレス収集を完了(未収集 10~15 件想定)
- [] 郵送の予備対応を準備(HP 参照の案内中心)
- [] 12/16 学術研修会の Zoom 設定・動作確認(担当:中川理事、鎌田先生確認)
- [] 会員向け案内送付と Google フォームでの参加受付開始(担当:中川理事)
- [] 講師謝礼 1 万円の支払い手配(源泉徴収対応)
- [] 三司会当日朝の参加費回収体制準備(集合 6:30、担当:清沢先生)
- [] 懇親会会場(わらび市民会館)支払い一括対応(担当:[Speaker 2])
- [] 来年度に向けた三司会参加促進の広報案検討(写真利用可否、参加ハードル低減のメッセージ等)
- [] 費用弁償の試算(対象範囲別・イベント別参加想定・年間予算案の作成)
- [] 掲載収入の継続可能性とリスク評価、用途方針の整理
- [] 理事会日程(12/9、1/20、2/10、3/10)の出欠確認・議題準備
- [] 年間の理事会・臨時会・打合せ等の参加回数をカウントする運用を開始
- [] 会主催・共催・派遣／行政移嘱の支払い基準を文書化
- [] 費用弁償申請の報告書フォーマット(簡易版)を作成
- [] 会社業務命令時の費用弁償「辞退」手続き案を整備
- [] 年間総費用の試算(理事・一般別、イベント含む)を実施

- [] 健康まつり等のイベントでの申請・報告ルールを確定
- [] セコム説明会の要約メールを各自確認
- [] 複数ベンダーの比較説明会を企画・日程調整(エストエイド含む)
- [] 対象範囲(会員・非会員／個人・薬局単位)と費用試算の整理
- [] 年度内に結論を出すための検討スケジュール案作成
- [] 予算案の素案作成と理事会付議

AI 提案

- 説明会動画の公開方法が未確定(一般公開のリスク、ファルモの QR 掲載制限)。限定配布フロー(問い合わせベース、期限付きリンク等)の設計が必要。
- 運用規定第 5 条 2 の「誤情報発生時の報告範囲」の表現が曖昧。報告対象・閾値・連絡経路(会／ファルモ)を明文化すると運用過負荷を防げる。
- ファルモへのアカウント発行依頼フローが未確定(返答待ち)。SLA 想定や連絡窓口を事前合意すると導入(12 月)の遅延リスクを低減。
- 郵送と HP 誘導の併用期間の終了条件が不明確。メール収集率閾値(例:90%)で切り替え判断を設定すると周知効率が上がる。
- 任意離脱時の事務手続き(申請様式、反映タイミング、データ抹消範囲)の定義が必要。第 8 条 4 の運用指針を補足すると混乱を防止。
- 費用弁償の対象範囲(理事限定／委員含む／会員全体)と金額基準の確定が未了。財政試算とイベント参加見込みをもとに選択肢比較が必要。
- 掲載収入の安定性・クレームリスクに関する方針未整理。継続可否、収益用途制限、透明性の確保方法を決める必要。
- 三司会参加促進の広報戦略が未設計。若手・勤務薬剤師向けの参加ハードル低減メッセージ、周知チャネル、事後レポート様式を設計。
- 災害対策・備蓄システムの導入是非と予算枠の設定が未定。固定費(サブスク)発生見込みの管理方針が必要。
- 学術研修会の運営役割分担(Zoom ホスト、チャット対応、録画の有無、質疑運営)が未確定。運営チェックリスト作成を推奨。
- セコムのスマート／従来型の正確な料金・人数条件の整合性確認(初期費用・月額・従量課金・LINE オプションの有無)。
- 登録対象方針(薬局代表者のみか、全個人登録か)と費用対効果の試算。
- 平時利用(掲示板・アンケート)の具体的ユースケースと既存ツールとの機能比較。
- 300 人規模に近づく場合のシステム選択基準(将来拡張性・県システムとの連携要否)の整理。